

# 就職率が過去最高

年 組 名前

① 記事では、就職率上昇の背景を雇う側、働く側双方の視点から説明しています。それぞれ挙げてください。

・雇う側

景気回復に伴う人材不足を補うための活発な採用意欲

・働く側

早い時期からの積極的な就職活動

② 一部地域で減少がみられたことを「サンプルの偏り」と説明しています。偏りはなぜ起こるのか、記事を基に説明しましょう。

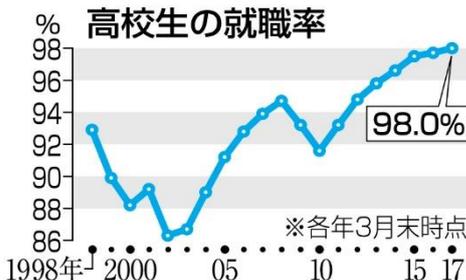
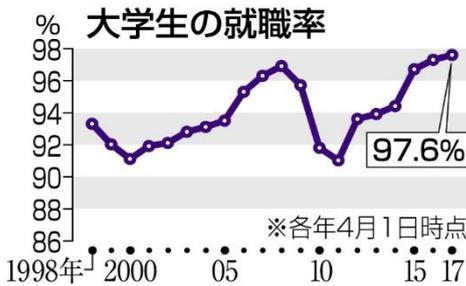
大学の一部だけを抽出して調査しているから。

③ 就職できなかった大学生を 9900 人とした際、就職を希望した大学生の総数は何人になりますか。記事中の数字を基に計算しましょう。

$$9900 : (100 - 97.6) = x : 100$$

答 41万2500人

# 今春就職率 大卒97.6% 過去最高を更新



今春、大学を卒業し、就職を希望した人の4月1日時点の就職率は昨年比0.3ポイント増の97.6%となり、3ポイント増の97.6%となり、統計を始めた1997年春卒から過去最高を更新した。厚生労働省と文部科学省が19日、発表した。6年連続の上昇となり、2年連続の記録更新となる。

就職を希望する全ての高校生を対象とする文科省の調査でも就職率(3月末)は98.0%昨年比0.3ポイント増で7年連続の増加となった。景気回復に伴う人手不足を背景に、企業の活発な採用意欲が反映された。

厚労省の担当者は「早い時期からの積極的な就職活動が高い就職率につながった。この傾向が続くのではないか」と話している。一方、大学生のうち約9900人が就職できなかったと推定されることから、企業に既卒者も新卒者と同様に扱うよう求めている。

大学生の調査は、国公立大24校と私立大38校を抽出し、学生を面接するなどして調査。主に正社員などとして就職した人の割合は、男子が96.9%(0.2ポイント増)、女子が98.4%(0.4ポイント増)。理系が98.7%と文系を1.4ポイント上回った。

地域別では、関東地区の98.8%が最も高かった。北海道・東北地区や中部地区、中国・四国地区では減少がみられたが、厚労省は「サンプルの偏りによるもの」としている。

高校生では、卒業生10万5300人のうち18万8200人が就職。富山県で就職率100%を達成するなど北陸3県(富山、石川、福井)が上位を占め、沖縄県の89.5%が最も低かった。大分県は99.2%だった。

(2017年5月19日付夕刊社会面)